

ふしみサラダボール子育て情報

「人間と子ども」

令和5年10月25日号

板橋富士見幼稚園



快の感情を豊かに

親と子の絆、そして家族の絆は、何故こんなにまで強いのでしょうか。単に長く一緒に居るからとか、金銭的援助関係があるからなどと簡単なことではありません。

少し難しいかもしれませんが、生理学的見知からお話したいと思います。まず、人は何故言葉を話せるのでしょうか。言葉は、人間が創り出した文化的記号と言われていて、時代と共に死語となったり、新しい言葉が創り出されたりしますが、不思議なことにどの国にも言葉を知らない人はいません。言葉を話すためには、言葉を覚える必要があります。

幼児期の場合、1年間に約1000語を獲得すると言われていて、これは、中学3年間で覚える英単語とほぼ同じ数です。では、幼児は何故こんなに沢山の言葉をいとも簡単に覚えてしまうのでしょうか。

人間には、出産と同時に3つのホルモンが強く関与します。一つは、良く耳にする「ドーパミン」です。二つ目は「セロトニン」と言われる物質です。そして3つ目は人間にとって最も大切と言われている「オキシトシン」と言われる9個のアミノ酸が鎖状に繋がったタンパク質です。このオキシトシンは、出産時と出産後に親の体から分泌されるホルモンです。そして母乳や人工乳を介しても子どもに注がれていきます。このオキシトシンは、人間にとって幸福感や自己肯定感をもたらす大切なホルモンといわれています。言葉と感情は一体のもので、心が満たされ安定すると、言葉の成長がより促されるのです。

握手をしたり、背中をなでたり、ハグしたりというスキンシップをしたり、また褒めたり、認めてあげたりする行動も、オキシトシンがたくさん分泌されると言われています。

始めましょう。スキンシップを。

【運動会が終わり、余韻に浸りながら他学年のお友達と運動会ごっこを楽しんでいます。】

